

『配給物絵日記』

〔凡例〕

- 一、日付・天気・品名・金額・説明の順に記した。
- 二、物品ごとにまとめて記した。
- 三、略字は正字に替え、旧字はそのままとした。
- 四、すべて縦書きに統一した。
- 五、改行は「」で表した。
- 六、()内は編者の注記を記した。
- 七、読み取れない箇所は□で記した。
- 八、「」は朱線等の範囲を示した。

翻刻…

昭和館学芸部 渡邊一弘・財満幸恵

◆121

三

◆122

◆123
 十九年四月「配給絵巻」
 寒い冬も終りましたが、「余寒もありまだ変化ない配給物」で興味も感じなくなりでしたが、其の内「春夏とかわった物の出て来る日も」あるかと思ひ引きつゝいてみませう。」

◆124

四月一日
 油アゲ ニツ 拾銭

◆125

四月一日、薄日 暖氣を感じる。
 にしん 百目 二十四銭

◆126

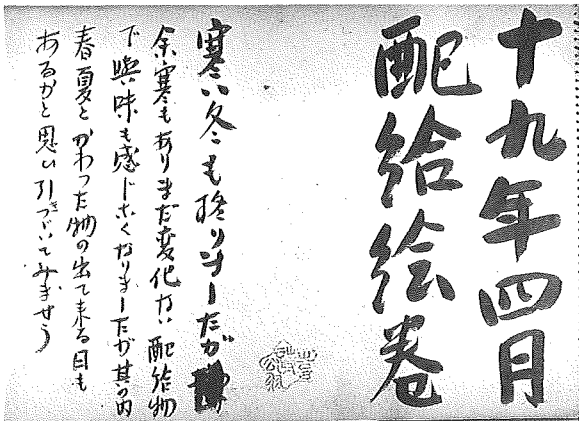
四月二日 雨「春らしくもなく寒い。」
 鮫切身「二切」三十六銭
 鮫には公定價が無い由で「うまくもないのに」高價である。
 四月三日 薄日 寒し。
 小鱈 三毛 拾銭
 鮫と云い小鱈と云いあまりうまいもの「ではなかった。」

◆127

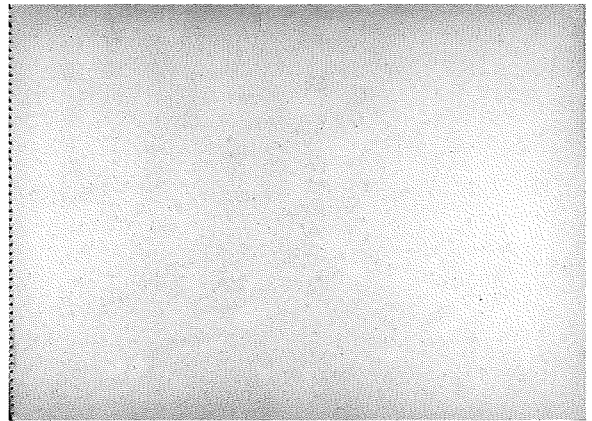
四月四日 晴 冷氣ナリ
 里芋 六銭
 四月五日 薄日 利寒い。
 福神積^(ママ) 五十目 十六銭



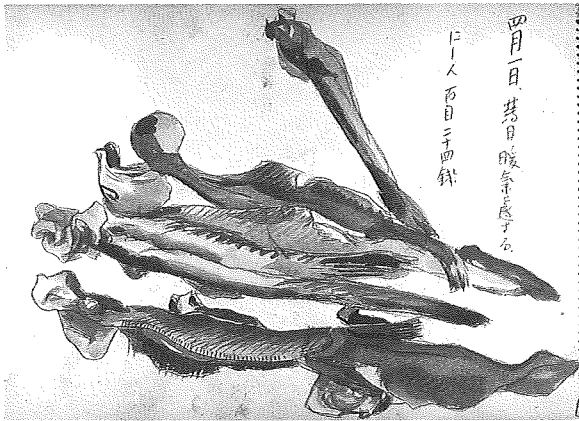
◆121



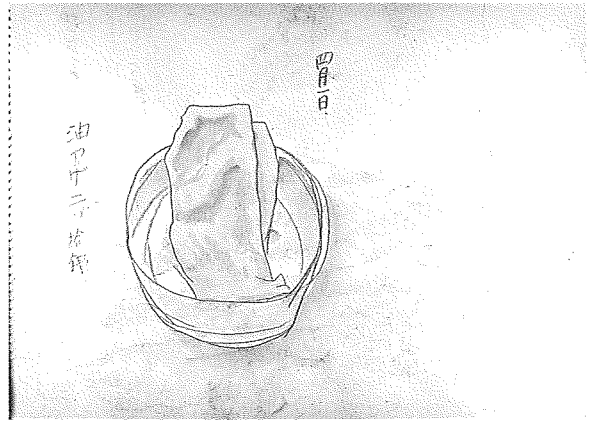
◆123



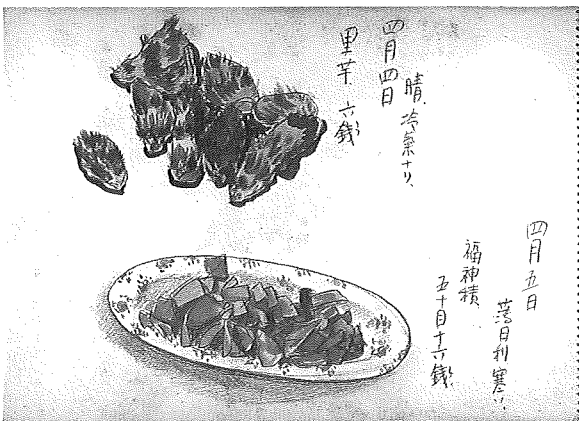
◆122



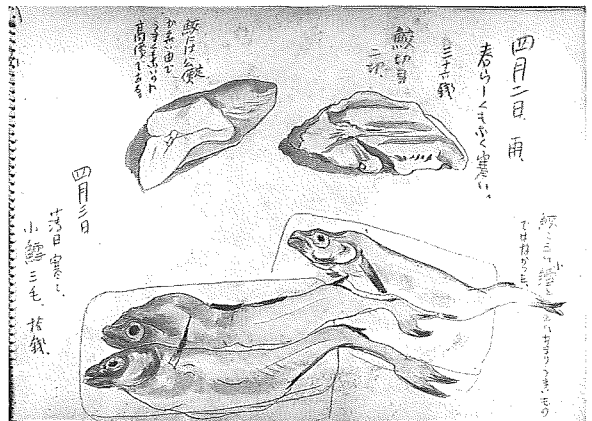
◆125



◆124



◆127



◆126

◆128

四月六日「晴 風無く暖かなり」
やっと春らしく
にしん。五十目」 十六銭也。」
またまた一日と同じの」

◆130

四月七日「雨」 十七時」
カラシ菜 六銭」

◆132

四月十日 晩
おから」
うの花、拾銭」
めづらしいものが配給（マヤ）されました。」
四月十三日「曇ー雨」
四銭」

◆134

四月十八日「薄日 寒し」
くづ葉 ホウレン草、八銭」
いつもくづ葉で」すが無いよりまし
と「云ふのか？」
コンニヤク」 ニツ 十銭」

◆135

四月十八日は三種の「配給がありました。」
した。」

大根奈良漬（ホウ） 四十五匁」 二十五銭」

「各家庭八十匁が単位」の配給、七人も二人も同じ」と云ふ事に矛盾して居るので、「私の家だけ四十五匁の配給を」受けた□□□。半分は多い」家にわけていたゞく。」

「この大根奈良漬は、チンチキ物で」した。澤庵に妙なかすみたいな」ものをぬってあるだけで、味は澤庵」でした。実に戦時食糧不足のすきに大なる詐欺行意（マヤ）です。」

四月十九日「雨」 午后止

玉子二個」拾六銭」 中村様扱ひ。」

四月二十日「晴」

生鯉二毛」 二十七銭」

青ノリ、一缶」五十八銭」

◆129

四月七日「晴後小雨」
牛肉 三十匁 四拾八銭」
新しいからくろいです」
にたらかたいかもしれない。」
四月七日「雨 十六時半」
大根奈良漬（マヤ）」 九十目」 五十銭」
味無し マツイカラ平□の配給由」

◆131

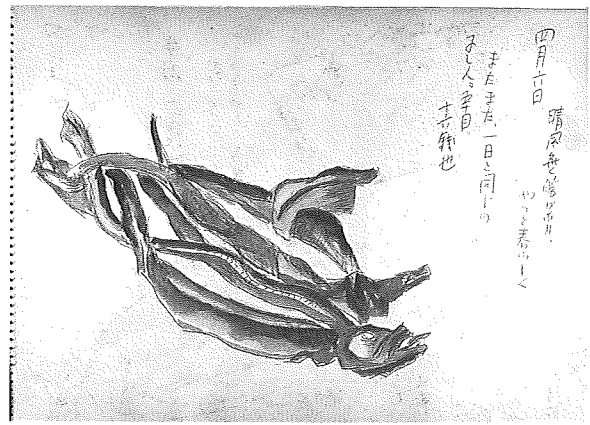
四月九日」
この魚 三十銭。」
中村様扱ひ。」
四月九日「雨後曇り」大いに「寒い。」
豆腐 十銭」
四月十日「晴 薄ら寒い」
ホウレン草 参銭」
今日は「二人前は少々」
遠山様扱ひ。」

◆133

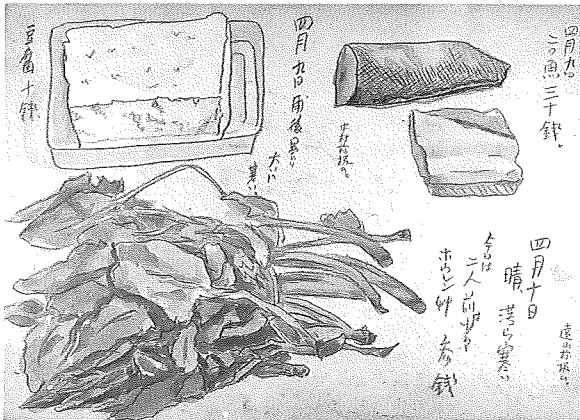
四月十五日「晴後雨有。」肌寒い日。」
カラシ漬は二拾銭」
ホーレン草はくづ物」みたいな葉なり。五銭」



◆129



◆128



◆131



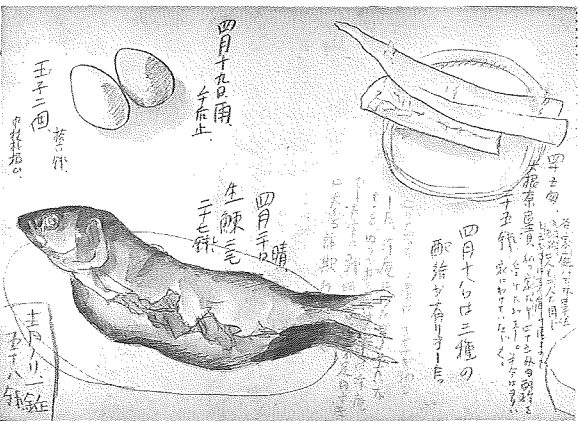
◆130



◆133



◆132



◆135



◆134

◆136
 四月二十一日 晴
 フキ 十七銭
 ウドン粉 六銭
 脱脂豆一割五分入、
 米の配給は、十キロつゝに」なつて隣組一帯に二十一日」あつた由だから、以後困る」だらう」と
 コンニヤク 一ツ 五銭

◆138
 二十三日モ「鱈配給有」二切 十七銭
 四月二十四日 快晴、肌寒し、
 菜葉 十八銭
 本二十四日の「鱈は」二切 十八銭

◆140
 四月三十日 快晴、春らしく
 八重桜満開也。
 一塩鯿 二尾 拾七銭
 ヘッド。拾貳銭
 納豆 拾銭

◆142
 両面一ぱいにかきましたら紙の節約になりました。いつも平凡なものばかりで」かき映へもしませんが、半年つゝけてみま」せう。」米の配給が足りない」と各家庭も不平です」毎日空腹で困つてゐます。雑炊でやつと」月の配給を伸ばしてゐます。」
 五月号「配給日記」

◆137
 チリ紙 二十銭あり
 二帳 あり」マシ」夕

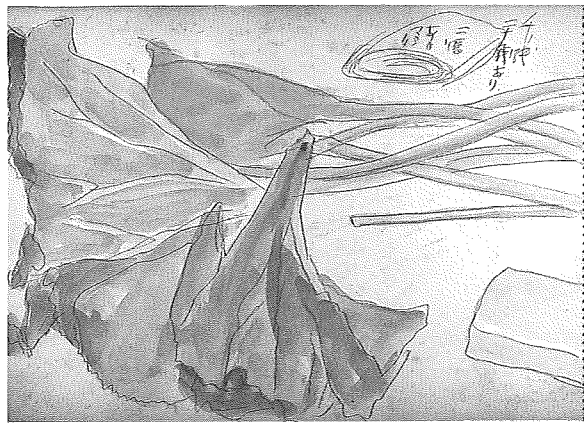
◆139
 二十四日 朝
 豆腐 十銭
 四月二十六日 雨降たり」晴れたり」不定
 干鰯ととろろこぶ 三十一銭
 四月二十九日 雨後快晴 天長節
 海苔 二帳 六拾四銭

◆141
 四月三十日
 昼頃荒天雷鳴有 雨有夏の様であり」
 つけな 九銭
 沢山の配給有難

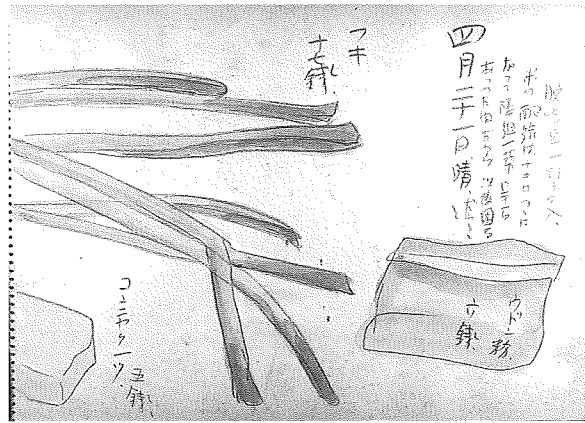
◆143
 五月二日 晴 初夏らしく暖い。
 ホッケ 一尾 拾参銭
 五月三日 晴、夕
 亀戸」大根 三本 九銭

（米巻）
 四月中配給物を「買った代價は」
 銭也

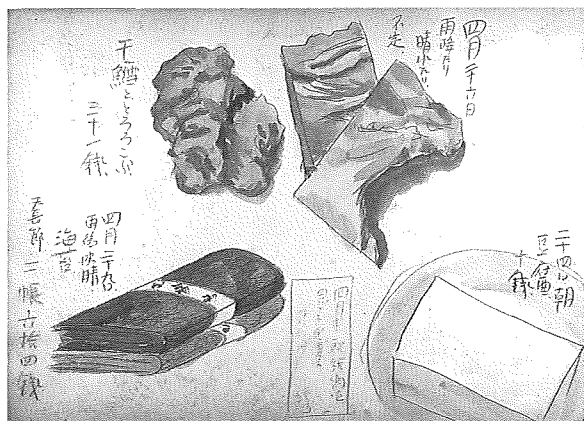
（米巻）
 計金六円九十二銭



◆137



◆136



◆139



◆138



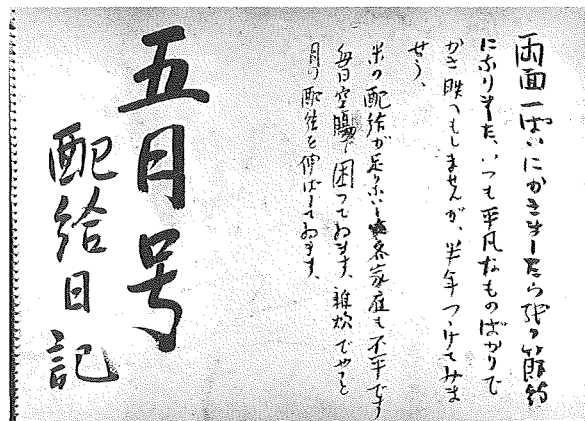
◆141



◆140



◆143



◆142

◆144

五月五日 朝雨午曇、「
むき鮫」 五十四銭」
晩になって「たくさん配給」して来る
暖く「なつては困るか」と
五月六日晴
小株四個 七銭」
六日にお米の配給」日、十九キロ脱
脂豆」がたくさんはいてゐる相」で、
價は報告があり」ません。来月六日
まで分」

◆146

五月十一日 晴」 南風強くむしあ
つし」
鯨 二尾 十四銭。」
五月十二日 曇」 少々冷気を感じ
る由」
鮫と鱈、」 三十五銭」
晩になつて」
(十一日) ?
インゲン豆が配給。」有つたはづ呈出
がないので、代價も何合かわから
ず。」
野菜もチエ子様も」御不在の時は、
購入券」もわからず買へなかつた。」
(十二日) ?
五月十三日 晴 初夏らしい日成
る。」
朝、「^{マユ}字」の「花」五銭」

◆145

五月七日 晴」 急に暖気が、暑気
を」感ずるほど也」
若目 十七銭。」
五月九日 晴、」
豆腐 十銭」
五月九日 晴」
奇麗な亀戸大根」 四本」 十七銭」

◆147

五月十四日 晴」
カラシ漬 十六銭」
塩辛くて、「からくて、甘つけ」と云
ふ様な」ものもたまに「ほしい」
同日 酢 一合 配給有、」 六銭」
五月十七日 冷雨」 晩、」
小鱈」^{イナダ}と鱈の切身」 三十銭」
罐詰配給有」六十五銭位か？」
うまいので、空きかんをかいて」置
く、いつあつたのか知らない。」

◆148

五月十八日」 小雨後」曇り寒気也」
生鯨 二尾 十四銭」
空豆たくさん其一部」 二十銭」
はつもの買たり、ありがたし。」
苺 四十九銭」
めづらしいものが配給」されてきま
した。」少々ぜいたなものです。」

◆150

五月二十一日、「曇、」
小鱈、十五銭、」
二十一日の「晩」配給」
うど」ん」粉」 三十銭」
五月二十二日 晴 朝、「警戒警報中」
かきはめづらしい」ありがたし」 二
十三銭」

◆149

五月二十一日、「不良天候、」薄ら寒
い」昨夜から警戒警」報發令ま、也、」
豆腐 二丁 配給、」 二十銭」
小株 五ツ」十銭」
きたないかぶ」ですが」久し振りに」
お葉ものが」頂けました。」

◆151

五月二十四日 晴、「今日快晴」初夏
らしい」陽光」ありがたし」
塩鰯、 六尾」 十四銭」
めづらしく」キヤベツ」 半分」 十
銭、」

◆152

五月二十五日 薄晴
おそば二ツ配給有。二十六銭。
有難し長時間行列「しないで頂ける
なんて、」ありがたすぎる。
五月二十六日 薄日。
そひ 三十五銭「妙な名の魚なり」

◆154

五月二十九日 晴 晩の配給
鱈 十八銭
鰯の小サイ切身。十銭。
五月三十日 薄日、
きやべつと大玉ねぎ 三十六銭也
神経痛で苦しむ日

◆156

なり野菜は貧弱になつてくるばかり」
期節キマツのものもなく平凡なり。「アスパ
ラカス一かん有った位が上上也。」
六月三日、快晴、「藪蚊が、出て来
た。」急に初夏「らしくあつい。」
きやべつ」半分」八銭也。」

◆158

七月三日「晴」
一本」七銭也」
左腰と左胸の痛味を感じて「閉口し
た日なり一日休養せり、」
七月四日 雨有、
インゲンマメ 二十銭
四日警戒警報あり。「五日晚解除され
る。」
七月六日「晴」
塩ます」三切 十四銭」

◆153

五月二十七日 雨、
空豆 二十銭
同二十七日 晩の「配給。
静岡のキヤベツと云ふ」三百目。
三十一銭也」

◆155

六月号「日日繪記」
六月分は台所氏より提供が「なく食
慾の方へ至急なるため」記録するに
とまもなく、尤も相変「ずのものば
かりそれに魚類は」千恵子様御不在
の時は好意で「保管して下さるため
急いで食ふこと」

◆157

七月配給「繪日記」
七月一日 快晴」 早酷暑の如く、
あつい日がつゝ、く」
かぼちや」百目」二人分」七銭」

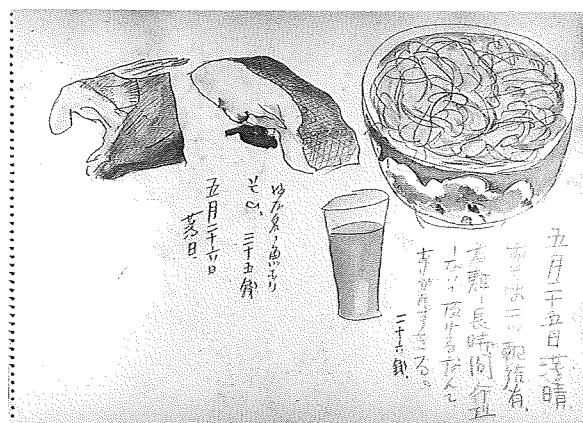
米割
米の配給有」十五キロ、豆三割位
あり。「六円九十五銭の由、」一ヶ月分。」

◆159

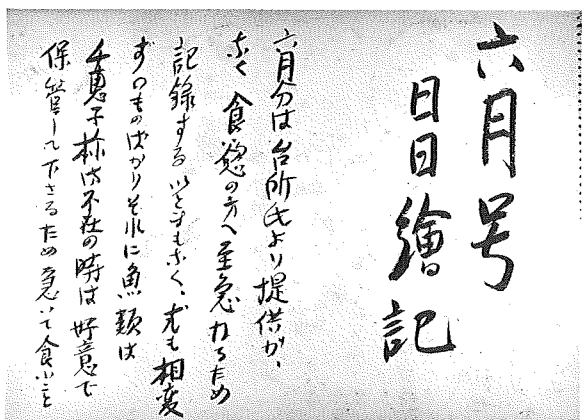
七月七日、晴、
きりぎりすの「餌ぢやあるま」いし胡
瓜半分「配給は恐れ入る。」五銭也、
七月九日 晴」
冷凍ホッケ 一尾 十三銭」
七月九日 晴」
大根丸もの 一本」五銭。」



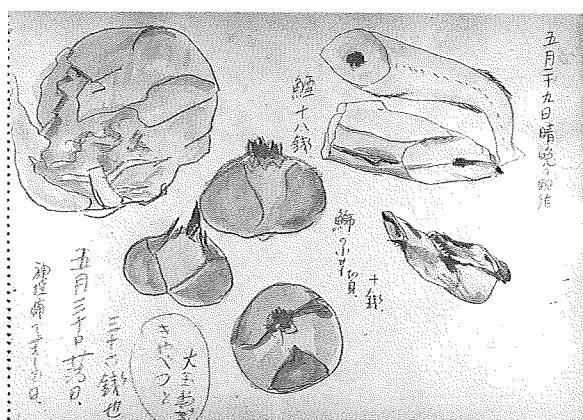
◆153



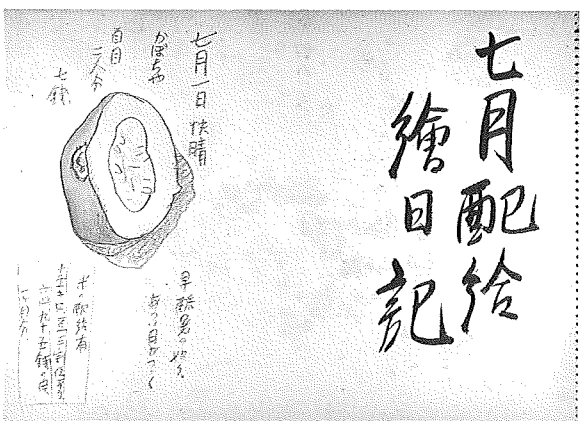
◆152



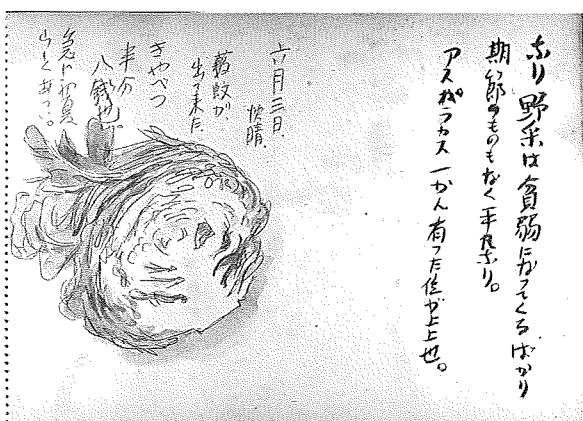
◆155



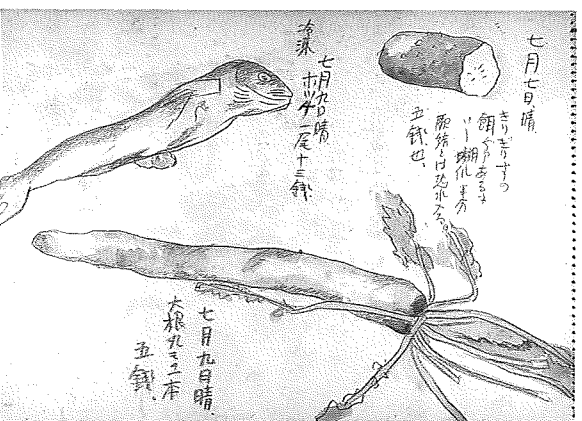
◆154



◆157



◆156



◆159



◆158

◆160

七月十一日 晴

大根の半「かけ」二人で四銭
半ばものを「くれます。」

七月十三日 晴 愈々酷暑に近着く。

かぼちゃ野菜は薬品の如く「少々尊い配給也。」 金五銭。

野菜の「一人が五銭」三人が七銭「矛盾ある配給仕方也」

七月十四日 晴、「雷」夜雨「あり」
椎茸 二十六銭

たくさんあって、「割合安い、有難し、」

◆161

盆の七月十五日 晴 愈々暑し、

塩鯖二尾 二十九銭
同日

大胡瓜 九銭
今日はまた大量なる配給品也。」

◆162

七月十七日 晴。「酷暑に至る。」

かぼちゃ「七銭」
貴重野菜になる。「これで二日量」

七月十九日 晴
かぼ茶 九銭「少し大すぎたかな」

サイパン島「全員戦死の」新聞よむ

◆163

〔本日十八日〕

〔東條内閣總辭職報有〕

同二十日、「
ジャガイモ 百二十目 拾七銭」

同二十日、「
牛肉 四十八銭」

二十日、「一日に」
こんなに「たくさん」の配給が「あり
ました。」めづらしい日」

七月廿一日 曇「早朝雨あり。」
生鰯 二尾 十銭

後に自由頒「賣もあり。」

七月廿一日
南瓜、「拾銭。」

七月も末に近くなつてゐるのに胡瓜
茄子「など出盛り時分だらうに南瓜
の半かけ」ばかりつく、たまには
葉ものも頂き「たいものである。」

◆164

七月二十五日 晴、

青茄子一個 十二銭也」

七月「二十七日」天候不良。「晴た
り降ったり、」降ったり晴たり、

寒天 二本 三十二銭。
どろだらけな「洗ったら□みし」い大
根になり。「大量でありがたい。」

◆166

七月二十九日

きゅうりのかけら「二人分」十一
銭」

カボチャが沢山あるそう「ですがあ
れは横流し」との組長さんの話もし」

それがほんとうなら、大変「な事、
と聞いていた。」私達にはそんな事」

一寸も知る事が出来「ないが組の事
をして」いると知るのかも知れない。」

この胡瓜図はチエコ様が「書いて置
いて下さったものありがたし」彩色
してみる。」

どうして完全な一本の胡瓜が「ない
のだから、もぎつてくづ物のような」
ものばかりなのかわからない。」

七月三十一日 晴

かぼ茶 九銭 二人分
八月二日 晴

胡瓜 三ツ 十三銭

大量なり。「丸物二ツはありがたし。」

◆165

七月二十七日 不良日

大根「六銭也」
新鮮な色でした。」

七月二十七日 夜十時に」
かつを 切身 二十銭配給

おせんべいの様「にうすく切」つてあ
りますが、「お魚はめづらしい。」煮て
置きました。」

◆167

八「月」号

八月にいつのまにか」なつてゐる夏らしい」酷暑つゞきである。」

八月二日、

この人參は、武藤様の心指である」いつも二人分は最少故に御同情して下さる」隣人愛感謝して頂く。」

八月三日 快晴」 暑氣甚し。」

大根はりはり」 三錢」

左足の「膝の神經」痛が昨夜か」ら起きて苦」む日。」

◆169

八月八日 晴 風強く台風氣味なり。」

今日もまたヂガイモ」少チエがなさすぎる」胡瓜茄子は横流れに」なつてゐるものらしい。」 大きくて 四個

六錢也」

八月八日 晩」

自由頒賣で」桃実の塩漬」四合位有、六十錢」

香物の代用品とし」て鈍豆ナグマ豆の如く味も」しゆう乙なもので。」

八月十日 晴」むしあつい」日」

はじめて茄子を」みる。 三個 八錢。」

八月十二日 晴」

胡瓜 二個 八錢也」

青物品簿」で、配給は」最少でも二ツ」あれば上等」也」

◆170

八月十一日 晩、

豆腐」二丁 二十錢」

少々小型になり。」

おから 四錢」

八月十二日、 晴」

めづらしい鮫三切あれども」柔らくて、くさがりが早いと恐れて」すぐ煮てしまった。 三十錢。」

八月十四日 快晴。」

茄子四個」 拾錢。」

◆171

八月十五日 快晴」

久し振りに」 納豆 十錢」

チエ子様画」

八月十六日 快晴」

久し振りに沢庵」 拾錢」

八月十六日 快晴」

ヂガイモ」 五十一錢 二人分」

大小取りまぜて四十一個、」これは、お米ヲ差引かぬ」との事少しはおなかがみ」たされる事。」

チエ子様画」

八月十八日 快晴」

油アゲ」 二枚 十錢」

塩ます」 二切 十四錢」

南瓜 二切 四錢」

十八日はめづらしく配給が重つて」三種頂けました。」

◆172

八月二十日 曇」

胡瓜の丸もの」 めずらしく、」 九錢」

〔勝彦〕應召座間本隊に入隊、めでたし」

八月二十二日 晴」

胡瓜 二個」 十二錢」

八月二十三日 快晴」

ホツケ 一尾 二十六錢」

同日」

ソース」

◆173

八月二十四日 晴」 時々スコールあり、」

シヂミ 七錢」

二十四日、 夕」

茄子 四個 拾錢」

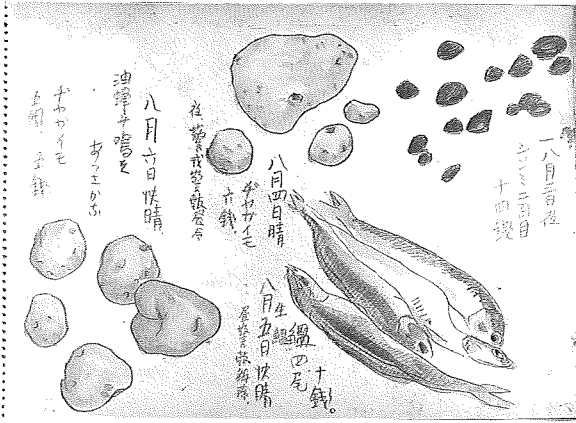
八月二十六日、 雨」 天氣不良。左足に痛を感じる。」

大胡瓜 一本 拾五錢也。」

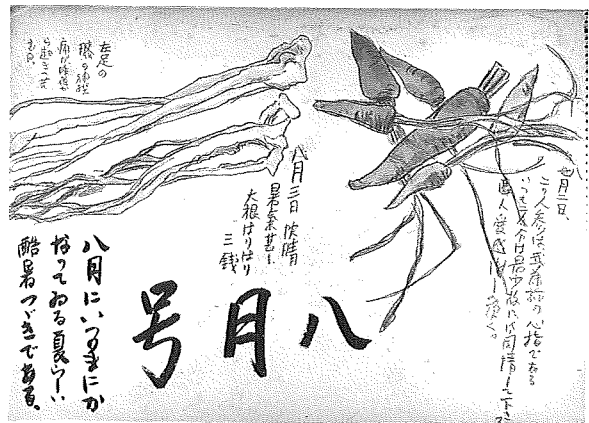
八月二十七日 晴」

昆布 一本 拾一錢」

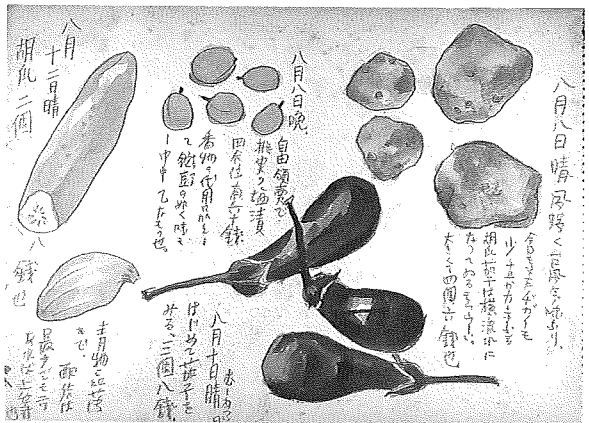
この昆布は」廣げてみましたら」一尺以上の大昆布」になりました。」



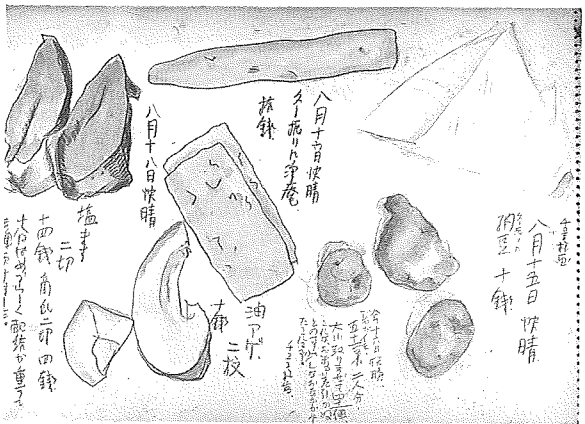
◆168



◆167



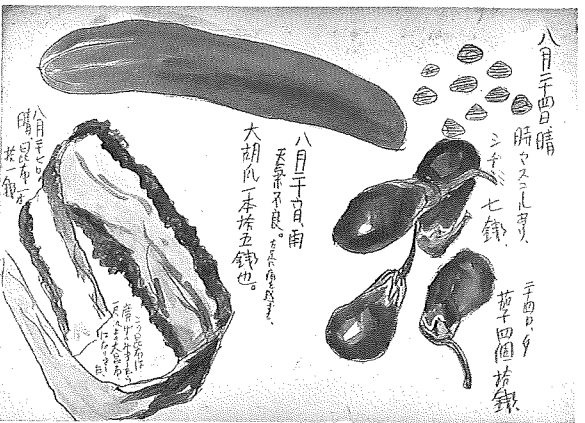
◆169



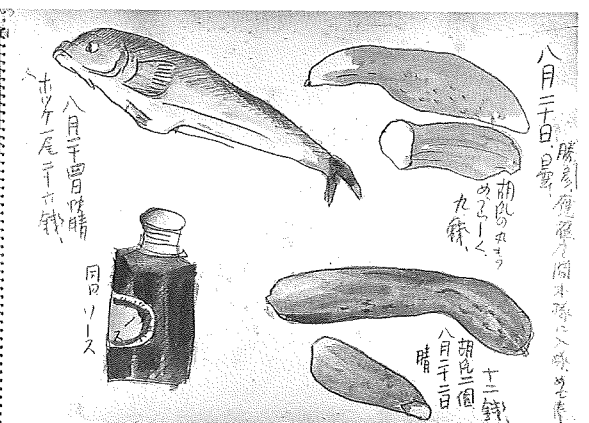
◆171



◆170



◆173



◆172

◆174

八月二十七日 晴

豆腐 二丁 二拾錢

今までより小型になりました。

八月二十八日 晴 曇

昆布づくだに 廿一錢

八月二十八日 晩の配給。

かぼ茶^{メダ} 八錢

ぢがいも、 十二錢

大小十五個

◆176

九月二日、 曇、

ニンシ 十六錢

九月三日 晴

大胡瓜 一本、 九錢也

九月五日 晴

胡瓜 一本、 七錢也。

妙な形のきうりなり。

九月六日 晴。

鮫 四十四錢

◆178

九月十四日 曇、雨

馬鈴薯 十五錢。

九月十五日 雨

茄子 二個 六錢也

九月十六日 雨、

サツマイモ 十五錢也。

大きなイモ、配給あり」めづらしく
初物。」

十六日 夕、

納豆 十錢也

◆180

◆175

九月号

御役人様が協議して下さいますが

野菜も魚介類は少なくなるばかりで

す。戦争中は我慢しなければ申」わ

けありません。配給は有難いもの

です。」

九月一日、 晴 二百十日」なれど

も」残暑のきびしき」日、静也」

キヤベツ 半分 十錢

◆177

九月七日 晴雨

胡瓜 六錢

九月九日、 晴雨

ヂヤガイモ 二回あり、

配給 十錢」 特配二十三錢

九月十日 晴

シヂミ 十六錢

九月十一日 襲雨あり、不良

南瓜 一切 四錢

九月十三日 晴曇、

茄子 二個 五錢

九月十三日 夕

かつを 切身ニツ 五十五錢

◆179

